

学習会

2/22・木

「やる気を引き出す魔法の質問」講座を開催しました -南ブロック-



「同じところ探し」の今回の最高数は13個。ほかにも「数は少ないが特徴的な共通点が見つかったペア」では、「息子の誕生日が同じ日」「名前の漢字が同じ」というものも。

もし学校の先生がおられたら、新しいクラスになった時にこの方法を使うと、仲良くなるのが早いですよ



文化パーク城陽にて、「魔法の質問認定講師・魔法の質問キッズインストラクタートレーナー」の植嶋貴子さんを招き、「やる気を引き出す魔法の質問」講座を開催しました。

36人の組合員の参加があり、7つのテーブルに分かれて着席しました。

まず植嶋さんより「質問の答えに良し悪しはなく、すべて正解です」「答えをグループ内で発表する時、1人が終わると拍手をします」などの簡単な

ルール説明があり、ワークシートの質問に自分の答えを記入、発表し合いました。

特徴的なのが発表の順番。「グループの中で一番手の温かい人から時計回りに」「誕生日が一番早く回ってくる人から」というもの。必然的に会話やスキンシップが生まれるので、初めは緊張気味だった参加者もどんどん打ち解けていきました。

中でも盛り上がったのが、グループ内でペアを作り、「(2人の) 同じところはどこですか?」という質問。

「眼鏡をかけている」「背の高さが同じ」などの見た目ではなく、質問しないとわからない共通点を2分間で探すというもの。世界記録は何と48個! みんな一生懸命に共通点を探しました。

他にも「言われてうれしい言葉」を10個書き出し、お互いに1分間ずつ褒め合うゲームをしました。初めは恥ずかしそうだった参加者も、ゲームが進むにつれて「ありがとう」「そうですね?」「よく言われるの」と自然に返せるようになり、とても楽しげな雰囲気でした。

最後に、「見返りを求めずに与えられるものは何ですか?」の質問をみんなで考え、「待っている方はいらっしゃ

ると思います。ぜひ届けてあげてください」という植嶋さんからのメッセージで終了しました。

発表はどのグループも笑いを交えて楽しそうに行なわれ、講座が終わると、始まる前に比べてとても和やかな雰囲気。帰り際に参加者同士で「またお会いしましょう」という声も聞こえ、まさに魔法のような時間となりました。

植嶋さんより

子どものやる気を引き出す魔法の質問

子どもたちに「いいこと、何かあった?」と尋ねても「うーん、別に」と会話が終わってしまいがち。「何か」を「何“が”」と点を2つつけるだけで、子どもはいいこと探しを始めます。ぜひお試しください。



感想

共通点が偶然見つかることはあっても、探そうとしたのは初めてでおもしろかったです。これから新しい場面で出会う人と、仲良くなれるきっかけにできたらと思います。人との接し方だけでなく、自分のことも知ってもらえる機会となりました。ありがとうございました。

褒めることも大切だけれど、褒めてくれた時、ちゃんと受け入れることって大事だなあと改めて思いました。